


<div>研究目的</div> <div><p>本欄には、研究の全体構想及びその中での本研究の具体的な目的について、適宜文献を引用しつつ記述し、特に次の点については、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述してください。（記述に当たっては、「科学研究費補助金（基盤研究等）における審査に関する規程」（公募要領 5 9 ～ 9 0 頁参照）を参考にしてください。）</p><p>研究目的（科学研究費の交付を希望する期間内に何をどこまで明らかにしようとするのか）</p><p>当該分野における本研究の学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義</p><p>国内外の関連する研究の中での当該研究の位置づけ</p></div>			
<p>本研究の目的は、象の卵の殻について、生物、化学、物理、工学などの方面から多角的に調べることである。象の卵の殻は、80kg を超える体重の子象と、その栄養源である卵黄の大きな質量を支えるだけでなく、卵を暖める親の象の体重も支える必要がある。このため、象の卵の殻は、体重の軽い鳥類 (図 1) の卵の殻とは本質的に異なる構造を持っていると考えられる。また、象の卵の殻の仕組みが解明されれば、</p> <ul style="list-style-type: none">● 象の生態の解明、恐竜の卵の構造の理解（生物学）● 殻の化学生成反応の解明（化学）● 殻の原子レベルでの構造と C_{60} やナノクラスターとの関連の研究（物理）● 人工的に象の殻を作り、車の車体などに応用できる（工学） <p>など、科学、社会への影響は計り知れない。</p>		 <p>図 1: カモメ</p>	
継続分の課題番号	12345	研究機関名	逢坂大学
研究代表者氏名	湯川秀樹		

平成 18 年度までの研究経過（本欄には、研究の進展状況、新たに得られた知見を記述してください。）

今までは、地球上で最大の生物、シロナガスクジラの卵を用いて研究を進めようとしてきた。クジラの卵の場合は、高い水圧に耐える必要があるため、堅固の構造となっているはずであり、これが解明されれば、将来、深海潜水艇への応用も効く。しかし、シロナガスクジラの生息範囲が広い、海に潜っている時間が長い、生息数も減っている、などの原因により、卵を見つけることができなかった。

平成18年度までの研究の評価

本欄には、当初に計画した研究目的、研究計画・方法に対し、どこまで達成されたか、また、研究遂行上に生じた学術上の問題点等について記述してください。

困難にもめげず、よくがんばったと思う。

平成 19 年度以降の研究計画・方法

本欄には、平成 19 年度以降の研究計画・方法について、平成 19 年度の計画と平成 20 年度以降の計画に分けて、適宜文献を引用しつつ記述してください。ここでは、研究が当初計画どおりに進まない時の対応など、多方面からの検討状況について述べるとともに、次の点についても、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述してください。

研究計画を遂行するための研究体制について、研究代表者、研究分担者及び研究協力者（海外共同研究者、科学研究費への応募資格を有しない企業の研究者、大学院生等（必要に応じ氏名、員数を記入することも可））の具体的な役割（図表を用いる等）、及び研究分担者とともに行う必要がある場合には、学術的観点から研究組織の必要性・妥当性及び研究目的との関連性

研究代表者が、本研究とは別に職務として行う研究のために雇用されている者である場合、または職務ではないが別に行う研究がある場合には、その研究内容と本研究との関連性及び相違点

初年度は、まずインドとアフリカに行き、最新の技術を駆使して空と陸の両面から象の卵を探す。

当初計画との変更点

（本欄には、研究計画・方法、設備、及び主な研究経費等について、補助金の交付を受けた当初の内容と、これを変更する場合にはその変更点及びその理由を記述してください。）

野生の象を探索するだけでなく、妊娠中の象を保有している動物園にも長期出張して、観察を行う。

研究成果の発表状況

（本欄には、この研究の成果に関して、学術誌等に発表した論文(著者名、論文名、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年(西暦))、及び学会等における発表状況について記入してください。）

1. Juzo Kara, "Theory of Elephant Eggs", Phys. Rev. Lett. **800**, 800-804 (2005).
2. A. Cooper, "Egg of Elephant-Bird", Nature, **409**, 704-707 (2001).

人権の保護及び法令等の遵守への対応 (該当者は必ず記述してください(公募要領7頁参照))

〔本欄には、本研究に関連する法令等を遵守しなければ行うことができない研究(社会的コンセンサスが必要とされている研究及び生命倫理・安全対策に対する取組が必要とされている研究等)を含む場合に、どのような対策と措置を講じるのか記述してください。〕

象の卵のES細胞の培養、象のクローンの生成などは行わない。象個体を現地から持ち出すことはない。ワシントン条約ならびに生物多様性条約に抵触しない。また、組換え実験は行わないので、カルタヘナ議定書にも抵触しない。

研究経費の妥当性・必要性

〔本欄には、「研究計画・方法」欄で述べた研究規模、研究体制等を踏まえ、次頁以降に記入する研究経費の妥当性・必要性・積算根拠について記述してください。また、研究計画のいずれかの年度において、各費目(設備備品費、旅費、謝金等)が全体の研究経費の90%を超える場合及びその他の費目で、特に大きな割合を占める経費がある場合には、当該経費の必要性(内訳等)を記述してください。〕

「研究計画・方法」欄で述べた研究規模、研究体制等を踏まえると、次頁以降に記入する研究費は妥当、かつ必要であり、積算根拠も妥当である。

(金額単位：千円)

旅費等の明細（記入に当たっては、研究計画調書作成・記入要領（継続）を参照してください。）

[illegible]